



Newsletter

No. 10 July 2013

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

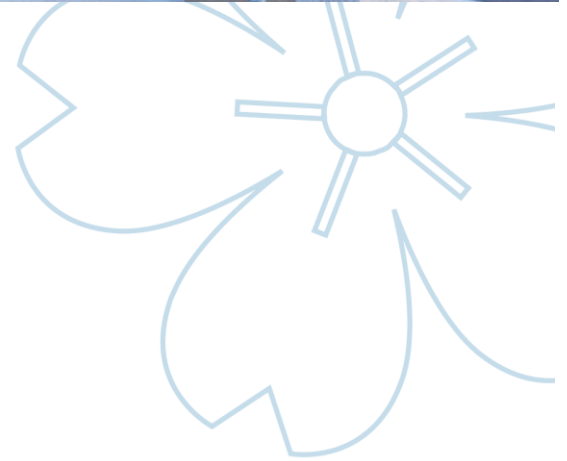
El agua dura de Chile (チリの硬水)

水に含まれるカルシウムとマグネシウムの量は、地域・地勢によりさまざまです。WHOでは、硬度(カルシウム量mg/L×2.5+マグネシウム量mg/L×4.1)が120mg/L未満が軟水、120mg/L以上が硬水と定義されています。日本の水道水は概ね軟水に分類されます(東京都水道局の資料では文京区における水の硬度は平均78.5mg/L)。他方チリ・サンティアゴでは、アンデスの雪解け水が主水源で、豊富なミネラルを含んでおり、硬水となっています(チリ大学の調査によると平均393mg/L)。硬水に多く含まれているマグネシウムの影響で、普段硬水を飲むことが少ない日本人はお腹が緩くなりやすいと言われていています。我が家もチリでは水道水の飲用は避け、比較的硬度の低いミネラルウォーターを購入して飲用としています(硬度だけでなく衛生的な理由もありますが)。ちなみにチリ南部(第VII州より南)では日本と同様軟水が多いとのこと。「チリの水は硬い」というイメージが強いですが、それはチリ中部から北部に限ってのことのようで、南北に長いチリならではの地域差といえましょう。

さて水の硬度について調べてみると、和風だしや煮物、緑茶などは軟水が合い、コーヒー、スープ、シチューには硬水が合うというように、硬度により適した飲み物・料理があるとのこと。普段台所に立つことのない私には新鮮な情報でしたが、料理の好きな方には常識なのでしょうか。これを機に少しは台所に立って、硬度の「違いがわかる男」を目指してみようかと思えます。

ニュースレター第10号では、進行中の大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の報告を中心に、LACRCの活動をお伝えしてまいります。

河内 洋 LACRC 人体病理学分野



LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
PRENECの進捗状況	2
活動報告	5
コラム.....	6

PRENECの進捗状況

LACRCのメインミッションであるPRENECの最新情報をお伝えいたします。このプロジェクトは、第5州のバルパライソ、第12州のプンタアレナスにおいて、それぞれ年間3,000人、サンティアゴにおいて10,000人を対象とした免疫学的便潜血反応検査(以下、iFOBT)を計画しています。PRENECは、中南米諸国にも広がっており、現在エクアドル、パラグアイにてプロジェクト実施に向けて取り組みが始まっています。

一周年を迎えたプンタアレナスにおけるPRENEC



1° Jornadas

Programa Prevención Neoplasias Colorrectales

PRENEC Magallanes

HOSPITAL CLINICO MAGALLANES



マガジャネス病院PRENECスタッフとの記念撮影

2010年より、東京医科歯科大学、CLC、チリ保健省が実施してきた「大腸癌早期診断プロジェクトPROYECTO DE PREVENCIÓN DE NEOPLASIA COLORRECTAL(PRENEC)」のサテライトプロジェクトである、第12州・プンタアレナスにおけるPRENECが開始してから1年が経過しました。

本年7月5日に、プンタアレナスのマガジャネス病院においてPRENECの一周年記念式典が開催され、PRENECに参画しているLACRCスタッフ、CLC代表団、マガジャネス州保健局の面々が参加しました。

式典では、会場に集まった多くの聴衆の前で一年間のPRENECから得られた良好な成果が報告され、またこのプロジェクトの将来的な展望についても報告されました。今まではマガジャネス州保健局からの助成金(自治体レベル)で行われていたPRENECですが、今後はチリ保健省の資本により国家レベルでプロジェクトを進めていく方針となったことも報告されました。

また、各専門分野の医師、看護師らにより、プンタアレナスPRENECの1年間を総括する各種発表が行われました。

LACRCからは河内講師(病理担当)が「PRENECにおける病理医の役割」というスペイン語でのプレゼンテーションを担当し、出席者から大好評を得ました。

今後も、LACRCスタッフと東京医科歯科大学はプンタアレナスにおけるPRENECへの支援を継続してまいります。



プレゼンテーションをする河内講師

サンティアゴにおけるPRENECの開始記念式典

本年5月にサンティアゴにおけるPRENECが、本学、CLC、チリ保健省の監督の下、正式にスタートいたしました。7月12日にプロジェクト開始を記念した「大腸癌を予防しよう！」キャンペーンの式典がPRENEC実施施設であるCESFAM(地域の保健所)で開催され、チリ保健省より招待されたLACRCスタッフも参加いたしました。式典においては、プロジェクトのリーダーであるCLC大腸肛門科責任者・フランシスコ・ロペス医師が現在までのPRENECの進捗状況を報告し、その実績を踏まえ、サンティアゴで実施されるプロジェクトの重要性を説明しました。

また、チリ保健省オルランドー・ドゥーラン健康管理局長がPRENECを支援しているメンバーに対する感謝の意を述べるとともに、PRENECに関する条件を満たす対象者が、CESFAMにおけるPRENECプログラムに多く参加することへの期待を表明しました。

本プロジェクトでは、今後大腸癌の早期発見を目的に、50歳から75歳までの無症状の参加者に対し、約16,000人を目標に免疫学的便潜血検査(iFOBT)が無料で実施される予定です。



PRENECの進捗状況を報告するロペス医師



サンティアゴPRENECスタッフと



壇上に立つ小林助教



記念式典に参加したLACRCスタッフ

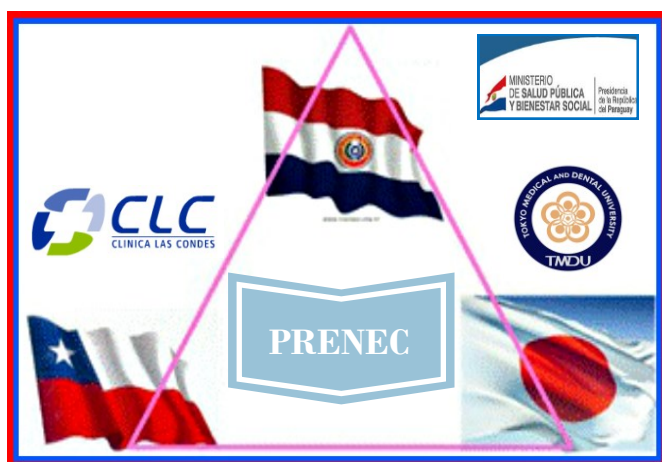
CLC・パラグアイ保健省との3者協定締結

大腸癌による死亡率の増加を懸念するパラグアイ政府は、昨年より、本学とCLCが共同で実施してきた大腸癌早期診断プロジェクトPRENECに興味を示しており、本年6月6日に東京医科歯科大学、CLC、パラグアイ保健省との間に「大腸癌早期診断プロジェクトの実施のための協定」を締結しました。

LACRCの河内講師、CLCのグレベCEO、プロジェクトのリーダーであるフランシスコ・ロペス医師からなるチリ訪問団が、6月5日から7日まで、パラグアイ共和国に滞在し、アルボ保健福祉省大臣、在パラグアイ日本大使館およびJICAパラグアイ支所の代表、パラグアイの保健当局と共にパラグアイの首都アスンシオンにあるデルケ国立病院で開催された調印式に参加しました。

また、調印式におけるスピーチでは、アルボ保健福祉省大臣がパラグアイにおけるPRENECは、拠点となるデルケ病院だけでなく、イタウグアー国立病院、国立大学病院、軍隊病院等といった施設でも実行される予定で、パラグアイにおける大腸癌死亡率低下に向けて今後も参加病院を拡大していく予定であると述べました。また、プロジェクトの開始に先駆け、本年9月に、パラグアイ拠点の内視鏡医、看護師、秘書、技師からなるチームが、CLCのロペス医師、クロンバーグ医師らが指導する各分野ごとの講習会を受講する予定です。同講習会では、CLCのボンセ看護師によるPRENEC共通データベースの運用手順についての講習も行われる予定です。

本学は、パラグアイ保健省とCLCの協力の下、このプロジェクトを学術的・技術的に支援してまいります。



パラグアイに広がるPRENECネットワーク



協定書に署名するパラグアイ保健大臣(中)・CLCのグレベCEO(右)



パラグアイ保健省癌予防部門責任者アルバレンガ医師と



協定書を受け取る河内講師

活動報告

第2回チリ・エクアドル腫瘍学シンポジウムに参加

LACRCスタッフとCLC訪問団は、6月27日及び28日にエクアドルの首都キトで開催されたSECOND CHILEAN-ECUADORIAN SYMPOSIUM ON ONCOLOGYに参加しました。このシンポジウムは、エクアドルの第一警察病院とCLCのCANCER CLINIC CENTERが共同で主催したもので、LACRCからは河内講師および岡田助教が講師として参加しました。

シンポジウムでは、河内講師が「早期胃癌の肉眼的、病理組織学的分類」と「病理組織学的所見に基づく早期大腸癌の治療方針」、岡田助教が「胃癌の内視鏡診断と治療」と「大腸癌の内視鏡診断と治療」というそれぞれ2題の講演を行い、いずれも好評のうちに終了致しました。

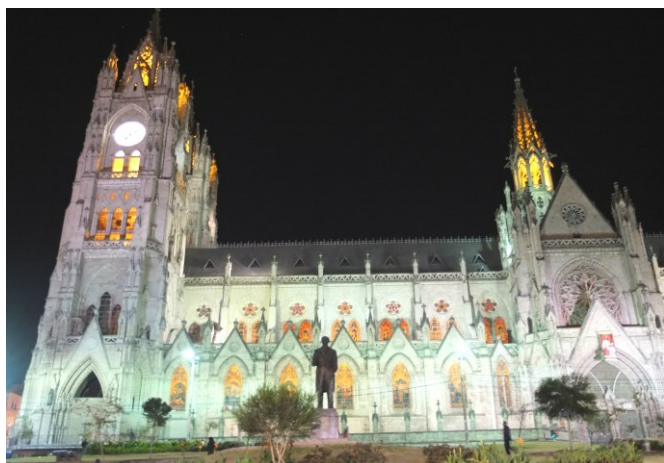
エクアドルでは、シンポジウムに参加したほか、河内講師と岡田助教が、ロベス医師らとともにキトのパブロ・アルトゥーロ・スアレス国立病院及び第一警察病院を訪問しました。現在では、エクアドルにおける大腸癌スクリーニングプロジェクトのために、LACRCスタッフを中心とした学術・技術支援や、研修コースの実施等に取り組んでおります。



シンポジウムのポスター



講演をする岡田助教



キトのバシリカ教会



パブロ・アルトゥーロ・スアレス国立病院の病理検査室にて

★コラム★ “甦ったカルメネール”

突然ですが、みなさんチリの3Wをご存知ですか？諸説ありますがWeather、Wine、Women（Wifeという方も！）がチリの3大“いいところ”だそうです。残念ながら女性である私は最後のWの良さは男性ほど実感できませんが、前者2つは存分に堪能しております。今回はその3Wのうちの一つ、チリワインについてお届け致します。

チリワインの特徴は、安くて高品質であることです。価格帯は1000-10000ペソ(200-2000円)と様々ですが、どのワインを飲んでもハズレがなくおいしい。特にCarménèreカルメネールというぶどう品種で作られた赤ワインは、チリを代表するものでバランスのいい味わいでとてもおいしい。プロによると、“メルローより華やかでほのかにスパイシー。カベルネ・ソーヴィニヨンのような芯の強いタンニンがあり、より優しいテクスチャー”。んー。とにかくおいしい。チリの文化を学ぶ上で重要な位置を占めるこのワイン。私も日々勉強(晩酌)に励んでおります。

実はこのカルメネール。とても興味深い歴史を辿った品種なのです。そのワインの特徴的な濃い色調と、葉の色から“Carmin(深紅)”を語源とするこのぶどうは、古くポルドーに由来し、17世紀初頭から19世紀にかけて最も広く栽培されていた品種でした。しかし1867年にフランスを襲ったフィロセキアという害虫被害により他のワイン用ぶどう品種と同様に壊滅的打撃を受けます。もともと雨に弱く病弱な種であったカルメネールは、この被害によってフランスでは失われた品種とされていきました。この歴史が覆されたのが約130年後のこと。1994年フランスのモンペリエ研究所ワイン学教授のジャン・ミシェル・ブルージク博士が、チリでメルローの亜種として栽培されていた品種がこの失われたカルメネールであることをDNA鑑定によって明らかにしました。1850年代にチリにわたったカルメネールが、年間300日以上が快晴で降水量の少ない気候と、フィロセキア被害に未だ襲われたことのない土地で100年以上元気に栽培されていたのです。単一品種として見直されたこのチリのカルメネールは、2008年に『カーサ・ラポストール・クロ・アパルタ』が米国雑誌ワイン・スペクテイターで年間1位を獲得し、一躍世界的ブームを迎えることになりました。

チリの燦々とふりそそぐ太陽の光と大地に生まれ、100年以上を経てワイン界に甦ったカルメネール。歴史に思いを馳せていただく

ワインはさらに味わい深く、おいしいものです。皆さんも機会があれば、カルメネールをぜひご笑味ください。

今後も定期的にコラムを掲載する予定です。またワインコラムをお届けできるよう、日々勉強に励む所存でおります。(小林真季)



サンティアゴ近郊ワイナリー「コンチャイトロ」のカルメネール

編集後記

LACRCオフィスに勤務し始めてから、3ヶ月が経ちました。徐々に仕事に慣れてきている気がいたします。LACRCオフィスで過ごした期間は、約3か月間という短いものですが、PRENECプロジェクトを支援して下さる様々な方とお会いすることができ、またLACRCの先生方より多くのことを学ぶ機会に恵まれました。今後とも、このLACRCのニュースレターを通じて、LACRCオフィスの最新近況をご報告してまいりますので、引き続き、ご愛読の程宜しく願いいたします。(ウレホラ・ハイメ)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 10, July 2013

[発行日] 2013年7月31日
[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 610 3780 Fax: (56-2) 610 8610
Email: jurrejola@clc.cl